

情報学部 情報デザイン学科

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
富田 寿人	Hisato Tomita	教授	順天堂大学大学院 体育学研究科	体育学修士 (順天堂大学)	日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、American College of Sports Medicine、日本ウォーキング学会	運動生理学、体力学	運動生理学	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルディックエクササイズ&ノルディックウォーキング. NA P. 東京. (2012) ・アクティブ・チャイルド・プログラム. 日本体育協会. 東京. (2010) ・ジュニアスポーツのための医・科学ハンドブック. 日本体育協会. 東京. (2007) ・体力とはなにか. NAP. 東京. (2007) ・スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成テキスト. 日本体育協会. 東京. (2006) ・リーダーのためのテキストブック. 日本スポーツ少年団. 東京. (2004) ・ショートトラック指導者育成教本. 遊戯社. 東京. (2003)
秋山 憲治	Kenji Akiyama	教授	早稲田大学大学院 文学研究科 博士後期課程満期 退学	博士(人間科学) (早稲田大学) 文学修士 (早稲田大学)	日本社会学会、日本労働社会学会、シニア社会学会	社会学(職業、労働、生活構造)	職業・労働社会学	<ul style="list-style-type: none"> ・職業労働(職業概念、プロフェッション、ホワイトカラー、職業意識、雇用・就業全般)の研究 ・非職業・準職業的労働(シルバー人材センター、社会貢献活動、仕事起こし)の研究 ・高齢者とジェンダー(年齢・性概念、属性原理、公平性、労働・生活全般)の研究 ・生活の仕組み(生活構造、生活の質、生活史)の研究 ・社会階層(新中間層、エリート、垂直的社会移動)の研究
大槻 弘順	Kojune Ohsugi	教授	東北大学大学院 理学研究科 博士課程修了	理学博士 (東北大学)	日本発生物学会、日本分子生物学会、日本生化学会、日本動物学会、Society for Developmental Biology USA、日本癌学会	発生物学、遺伝子工学、細胞工学、人工生命	動物発生過程の遺伝子発現制御機構の研究、生物発生過程からのアルゴリズムの抽出と工学応用をめざしたモデリング、自己修復する工学システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・動物発生時のパターン形成機構に関する研究 ・形態形成と細胞周期との関係に関する研究 ・自己組織化工学システムに関する研究 ・人間とロボットの関係に関する研究
友次 克子	Katsuko Tomotsugu	教授	同志社大学大学院 文学研究科 博士前期課程 同志社大学大学院 文学研究科 博士後期課程単位 取得満期退学	文学修士 (同志社大学)	日本認知言語学会、日本英語学会、表現学会	英語学、言語学	言語形式と意味の対応、日英語対照研究	<ul style="list-style-type: none"> ・アスペクトの研究 ・コーパスに基づく使役構文の研究 ・知覚動詞、心理動詞の分析 受動文の研究、 ・受動文の習得

小栗 勝也	Katsuya Oguri	教授	慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 修士課程修了 慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 博士課程単位取得 退学	法学修士 (慶應義塾大学)	日本政治学会、日本選挙学会、日本法制学会、慶應法学会	近現代日本政治史、政治学、現代マスコミ論	近現代日本政治思想史	・袋井地域初の小学校＝用行義塾に関する研究 ・明治以降の日本政治史・思想史・世相史に関する研究 ・日本の選挙分析、地方議会史の編纂
林 章浩	Akihiro Hayashi	教授	筑波大学大学院 企業科学研究科ビジネス科学専攻、 南山大学大学院 理工学研究科 ソフトウェア工学専攻	博士(システムズ・マネジメント) (筑波大学) 博士(ソフトウェア工学) (南山大学)	電子情報通信学会ソフトウェアインタープライズモデリング研究会、インフマテックソサエティ	ソフトウェア品質管理、プロセス改善、経営学、経営戦略論、オペレーションズマネジメント、サプライチェーンマネジメント、データマイニング、意思決定論、ソフトウェア開発	システム開発プロセスの継続的改善手法	・米国 Motorola, Inc社のJapan Productにおける開発、プロジェクト管理業務 ・NTT本社、NTT研究所、NTTコミュニケーションズ、NTTデータにおけるコンサルティング業務 ・IBMビジネスコンサルティングサービスにおける戦略コンサルティング ・CMM, CMMI, ISO/IEC 15504リードアセッサー、ISO9001審査員補を用いたプロセス改善コンサルティング ・統計士、データ解析士、JMPなど統計解析技術を用いた定量的品質管理コンサルティング ・各大学、企業、研修所におけるセミナー講師
R.G. McNabb	R.G. McNabb	准教授	ウェスタンオンタリオ大学 教育学部 英語・フランス語学士課程修了	文学修士 (ウオータールー大学)	JALT(日本全国語学教育学会)	EFL reading materials	英語教育	・Reading On 1 ・Fifteen Little Short Stories for English Language Learners ・English in the Media 2008 ・English in the Media 2007 ・English in the Media 2006
本多 明生	Akio Honda	准教授	東北大学大学院 文学研究科 博士後期課程修了	博士(文学) (東北大学)	日本心理学会、Association for Psychological Science ほか	心理学(実験心理学、感性工学、災害心理学など)	現代社会における多様な人間行動の解明	Honda, A., Tsunokake, S., Suzuki, Y., & Sakamoto, S. (2018). Effects of Listener's Whole-Body Rotation and Sound Duration on Horizontal Sound Localization Accuracy. Acoustical Science and Technology, Vol. 39 (4), 305-307. ほか
谷口 ジョイ	Joy Taniguchi	准教授	東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻 博士課程単位取得 満期退学	博士(学術) (東京大学)	社会言語科学会、異文化間教育学会、全国語学教育学会、日本語教育学会、日本質的心理学会、日本オセアニア学会	応用言語学、社会言語学、バイリンガリズム	小規模自助グループにおける継承日本語教育	A qualitative approach to language of your bilingual children, KLA Journal Vol.5 p.14-24 (May 2019)

松田 崇	Takashi Matsuda	准教授	武蔵野美術大学短期大学部 美術科 東亜大学通信制大学院 総合学術研究科デザイン専攻	修士(芸術) (東亜大学)	日本デザイン学会	グラフィックデザイン、 Webデザイン、シンボル マーク	ヴィジュアル・コミュニケーション	ヴィジュアル・コミュニケーションおよびコミュニケーションデザインの実践と研究《グラフィックデザイン「情報学部パンフレット」、サイン計画・ピクトグラム制作「建築棟および学内サイン」、プロダクトデザイン「机・書棚・パーテーション」》
紀ノ定 保礼	Yasunori Kinosada	准教授	大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程修了	博士(人間科学) (大阪大学)		認知心理学、交通心理学	認知心理学、交通心理学	小林隆史・藤井達史・紀ノ定保礼・篠原一光・蜂須賀知理・柿崎勝(2017). 同乗者との会話によるドライバの覚醒維持とメンタルワークロードへの影響の検討. 自動車技術会論文集, 48(2) p.457-462. Kinosada, Y. & Usui, S. (2016). Predicting driver's intention based on own vulnerability: A social interaction process between road users at an inters
伊藤 明倫	Akihito Ito	准教授	名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 博士前期課程	修士(芸術工学) (名古屋市立大学)	日本映像学会	映像インスタレーション、 メディアアート、メディア デザイン、現代アート	時間・空間について、無意識・ 情動についての作品制作と研究	作品発表: 国際展覧会CURRENTS 2016入選(アメリカ)、国際展覧会 FILE 2018入選(ブラジル) 国際論文: I.Takahashi and A.Ito, Siggraph Asia 2015, Art Papers Article No. 5 /International Conference Proceedings 「ACM Transactions on Graphics」 著書: DATA CITIES: The XIth Annual Meeting of UNESCO Creative Cities Network/UNESCO p186-p191